

広島大学 グローバルインターンシッププログラム  
**NEWSLETTER**

海外インターンシッププログラム(G.ecboプログラム)  
 —10年後の自分を探そう 世界と出会うインターンシップ—

2024年3月

第23号 Vol.16 No.1

目次:

G.ecboプログラム活動	1-2
世界で、日本で活躍する OB・OG	3-5
インターンシップアンケート、 活動報告	6
帰国レポート	7-10
リサーチアシスタントの紹介	11
派遣生一覧、運営委員会体制	12



G.ecboプログラムとは？



グローバルインターンシップを核としたサンドウィッチ教育を通して、既存の学問領域に縛られない多様な分野の課題に適応できる研究者の輩出、国際協力・国際援助の第一線をリードする実務者の養成と、世界中から集まる留学生や研修生の高度専門職業人としての育成を目指すプログラムです。

**G.ecboプログラム活動について** —Global Explorers to Cross Borders—

“With Corona, With Conscious Mind”を基に、コロナ禍前と同等レベルで活動すべく、2023年度のG.ecboグローバルインターンシッププログラムは開始した。従来の受け入れ機関に加え、2022年度に開拓したフィリピンの2大学、さらにスリランカの4大学・1機関にも学生を派遣できる環境が整えられた。



MAHARJAN, Keshav Lall

G.ecboプログラム運営委員長  
 大学院人間社会科学研究所  
 国際経済開発プログラム 教授  
 国際連携サステナビリティ学専攻 教授  
 大学院スマートソサイエティ実践科学研究院  
 Social Innovation Science領域 教授

結果的には、今年度のインターン生の渡航先は全て大学となり、研究中心・研究につながるインターンシップであった。この研究推進型インターンシップは以前からG.ecboプログラムの一つの柱であり、大学院生の応募者にとって重要なモチベーションになっている。

それと同時に、多様な現場のニーズに対応し、多分野的に解決策を導き出す方法を考究するには大学以外の組織；国際機関、I/NGO、第三セクター、コンサルタント会社、ベンチャー会社、ボランティア活動グループなどでの企業研修型インターンシップも重要である。今年度、企業研修型でのインターンシップがなかったのは、企業系への応募者が少なく、選考を突破した合格者がいなかったためである。コロナ禍の期間も含めてしばらく派遣がない機関については、今後の派遣に関して協議する必要がある。

新型コロナウイルスは世界的に一種の風邪とされ、日本でも2023年5月には5類に移行された。時には変異株が現れ、地域的・季節的に流行ったとしても、コロナが原因だと特定される死者が未無ではないが少なくなっている。(次ページのグラフ参照。統計上は刻々の国における感染者は2023年以降大きな増減なし) このことなどから社会的隔離、色々な行動上の制限がなくなっていく中で、企業研修系インターンシップの重要性が増す可能性がある。

(2頁へ→)

(1頁より)

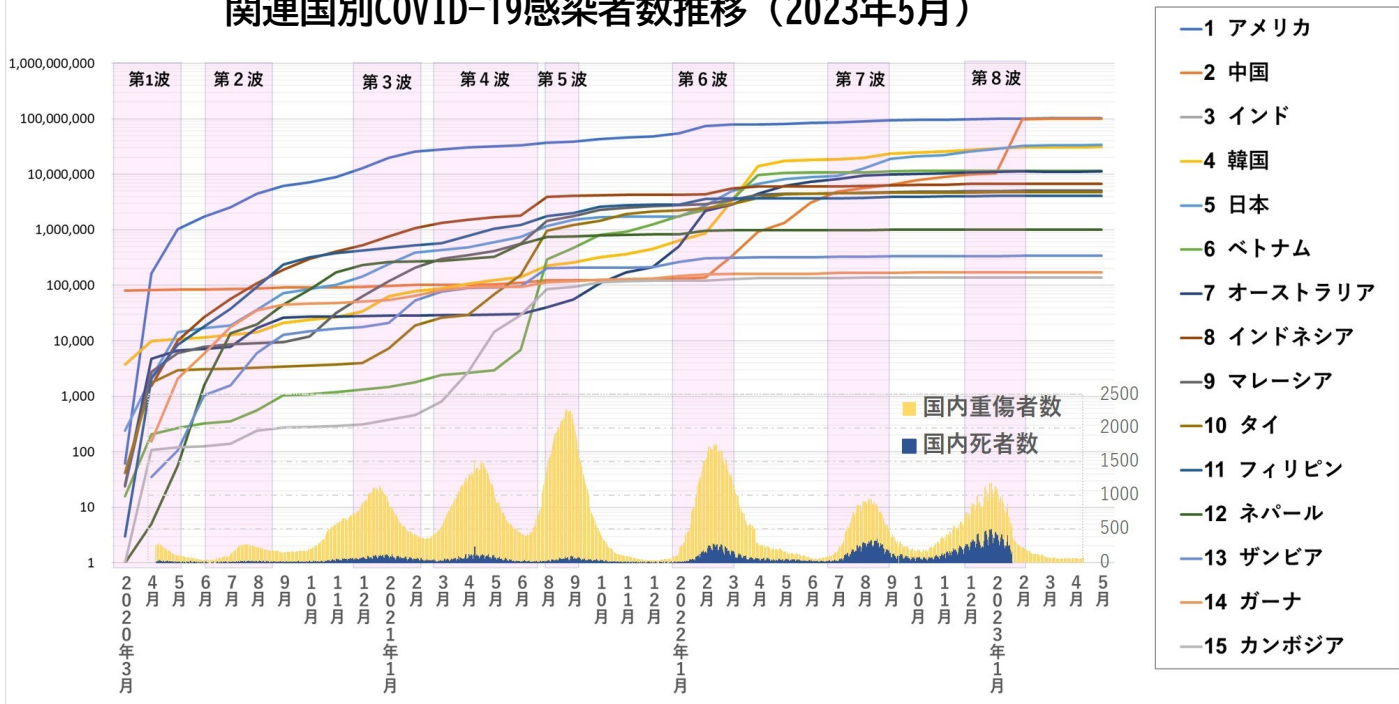
その意味において今後、大学以外の組織・国際機関などの派遣先の開拓が一つの課題となるだろう。また、本プログラムの重要な特徴であり、学生の国際性を醸成する教育的効果が高いとされている事前事後研修の運用・継続も今後の課題となるかもしれない。これらのことについて各方面のご協力に期待する次第である。

2024年度から本プログラムは広島大学の組織の中で、教育室から国際室に移ることになった。振り子ではないが、教育と国際、両方の側面を持つ本プログラムは、時世によって属する組織が変わるのは、ある意味においては仕方がないことかもしれない。広島大学が国際標準の研究を推進する大学(RU: Research University)として、世界のトップ大学のグループに入ることを目指し、国際化を推進している今日において、本プログラムが組織的に国際室の中に組み込まれるのが時勢にかなっているともいえる。国際室で集約されている他の国際的活動との相乗効果が発揮され、本プログラムもさらに展開されることが期待される。引き続きご協力をお願い申し上げます。

Internationalization with conscious mind

G.ecboプログラム運営委員長  
マハラジャン, ケシャブ・ラル

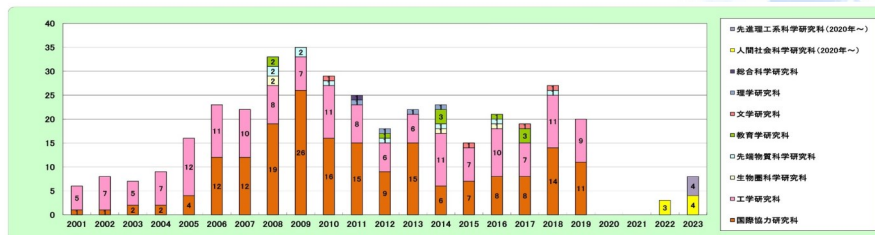
### 関連国別COVID-19感染者数推移 (2023年5月)



※感染者数累計 : WHO Coronavirus(COVID-19) Dashboard より、2020年8月までは1日の、9月以降は1週目のデータを抽出  
※国内重傷者・国内死者数 : 厚生労働省オープンデータより抽出

### 派遣実績について

G.ecboプログラムは2007年に全学化され、18年の歴史を持ちます。その前身であるECBO(旧工学研・専門ECBO)やi-ECBO(旧国際研・専門ECBO)時代を含め、総勢389人を世界へ輩出してきました。



## 世界で、日本で、活躍するOB・OG

樋口 洋平 さん HIGUCHI Youhei

2010年度 United Nations Development Programme (国際連合開発計画), 東ティモール 派遣  
国際協力研究科(開発科学)修了

### ◆近況, 現在の仕事について

IDEC(旧国際協力研究科)を卒業してからアツという間に10年以上が経ってしまいました。私は、2019年から沖縄にある、沖縄平和協力センターというNPOで事務局長をしています。普段は、海外と沖縄の大学生と一緒に平和について考える時間を提供したり、オンラインでの国際交流などの事業を行っています。

### ◆インターンシップから現在までを振り返って。一言で表すとしたら？

あつという間でした。

### ◆G.ecboでの経験が活かされたと思われた場面や局面について

G.ecboを通して、学生時代に東ティモールのUNDP事務所で2か月のインターンシップを経験したのですが、海外で働くことの難しさ、楽しさ、習慣の違いに対する寛容性を学ぶことができた気がします。

現在、日々の業務の中で海外の方と関わる機会も多くありますが、習慣の違いを受け入れ、楽しく仕事ができています。

また、インターンシップ以前は国連に一種の畏怖があったのですが、実際に中に入ってみると普通の人たちがいる大きな会社なんだと感じたことで、国連職員と聞いても恐れおののくことはなくなり、現在の仕事でも様々な国連職員の方とフラットな付き合いができています。

### ◆G.ecbo経験の中で、自分の中に残り根付いていると感じるもの、さらに発展していると感じるもの

あまりにもたくさんありますが、一番は向上心だと思います。インターンシップ期間中、フランスやブラジルから来ているインターンと一緒に働く機会がありましたが、語学堪能、仕事も早い彼らに圧倒されました。当時、私の自己肯定感は地に落ち、自信を無くしましたが、あんな思いをしたくない一心から努力を続けることができています。



G.ecboインターンシップ中に仲良くなった  
現地の友達と



イベントで大学生に説明をする私



大学生をパラオのスタディツアーに連れて行ったりしています

### －後輩へのアドバイス

私のインターンシップは楽しさ30%、辛さ70%というものでしたが、あの経験があるからこそ逆境でも踏ん張れているのかもしれない。

初めての経験ばかりの2か月間でしたが、多くの方のサポートの下で、海外での経験を積めるチャンスなので、ぜひチャレンジしてもらいたいです。

頑張ってください！



インターンシップで宿泊したホテルの前で

## 世界で、日本で、活躍するOB・OG

板谷 憲志 さん ITADANI Satoshi

2011年度 United Nations Children's Fund (国際児童基金), 東ティモール 派遣  
国際協力研究科(平和共生)修了

### ◆近況, 現在の仕事について

大学院を卒業後は, 開発コンサルタントであるパシフィックコンサルタンツ株式会社に入社しました。入社当初は, 国内部門の中部支社の営業部に配属となり, 主に土木インフラに関する営業活動を行ってきました。入社5年目には国際部門に異動し, 経営部門を担当する企画部と営業部を兼務し, 幅広く国際事業に係わってきました。

入社10年目には, キャリアアップを目指し, 株式会社M&A総合研究所に転職しました。主に中小企業のM&Aの成約までに至る一連のコンサルティングを行っております。私生活では, 3児の父親となり, 計1年4か月程の育児休暇も取得した経験を持つなど, 仕事と育児の両立にも奮闘しております。



1995年まで紛争していたスレブレニツァの  
中学校訪問@ボスニア・ヘルツェゴヴィナ  
(2012年1月・JICAインターンシップにて)



UNICEFインターンシップでの  
最終報告@東ティモール(2011年)



育児休暇中(2022年)



気候変動・エネルギー政策に関する  
意見交換(2015年)

### ◆インターンシップから現在までを振り返って。一言で表すとしたら？

「充実」です。成功も失敗も含め, 積極的にいろいろな経験をしてきたように思います。必ずしも近道や王道をたどってはいないとは思いますが, 多様な経験が, 仕事もプライベートも含む今の自分につながっていて, 充実した日々を過ごせているように感じます。

### ◆G.ecboでの経験が活かされたと思われた場面や局面について

G.ecboでの経験が大きなきっかけで, 最初の就職先に開発コンサルタントを選びました。具体的には, G.ecboで訪問した東ティモールで, 社会インフラを整備している日本の方とお話する機会があり, 開発コンサルタントという業界がインフラを整備するなど, 地域住民の生活水準をあげていて, 地域を発展させる上で重要な役割を担っているという話や生き生きと仕事をされている様子を見て, 開発コンサルタントという仕事に興味を持ち, 入社を決めました。現場の実態を垣間見ることで, 自分がしたいこと, できること, すべきことが再確認できるかと思えます。そして, 現地スタッフの働く態度や姿勢などを垣間見られた経験は, 就職後に, 外国人スタッフと仕事のやり取りをする際に役立っています。

### ◆G.ecbo経験の中で, 自分の中に残り根付いていると感じるもの, さらに発展していると感じるもの

持続的な地域づくりや国際協力に貢献したいという思いで大学院に入りましたが, G.ecboの経験を通し, その思いはさらに強くなりました。また, 興味深い機会があれば積極的に参加して様々な経験を積む姿勢はG.ecboの経験で強くなったようにも感じます。例えば, 大学院1年目前期に, G.ecboを通じたUNICEFのインターンシップで2ヶ月東ティモールに滞在した経験を経て, 後期にはJICAのインターンシップで2ヶ月セルビアとボスニア・ヘルツェゴヴィナに滞在しました。これからも積極的に自身のキャリアアップを続け, 持続的な地域づくりや国際協力に貢献していきたいと思えます。

### ー後輩へのアドバイス

G.ecboは, 実際の現場という貴重な経験を積める機会の一つです。自身の視野が広がった経験でもあり, 今でも私の記憶に色濃く残っていることがその証のように思います。インターンシップでの反省点として, より長期で滞在して(就職活動時期とは要調整), 経験者にヒアリング・目的の明確化などもっと事前準備をしておけば, より充実した経験ができたように思います。海外の現場に関心がある人は積極的にG.ecboを活用していただければと思います。(行かない選択肢はないというのが本音です。)

## 世界で、日本で、活躍するOB・OG

### 恵良 友三郎 さん ERA Yuzaburo

2016年度 Alternative Energy Promotion Centre (ネパール環境局), ネパール 派遣  
国際協力研究科(開発政策)修了

#### ◆近況, 現在の仕事について

半導体関連のメーカーで、セールスエンジニアとして働いています。主に欧米を中心に製品の営業活動やメンテナンスを行なっております。アメリカやヨーロッパへの2ヶ月弱の長期出張を年に3回ほど行っています。その際、G.ecboで培った「土壇場でもなんとかする力」や「英語力」などを活かすことができ、やはりG.ecboに行って良かったなと思える日々です。



出張でオーストラリアへ

#### ◆インターンシップから現在までを振り返って。一言で表すとしたら？

「積み重ね」。例えば英語に関していうと、自分が大学院に入った頃は、本当に英語が話せず苦労しましたが、最近ではやっとですが、ネイティブともちょっとずつ話せるようになってきたなと感じるところです。英語みたいな語学はやっぱり身になるまでにかかなり時間がかかるんだなあと思いますし、それこそ毎日積み重ねていくことでしか形にならないのではないかな……と感じます。……ということ、で、「積み重ねたことは確実に力になっていく」と思いこの言葉にさせていただきました。

#### ◆G.ecboでの経験が活かされたと思われた場面や局面について

常に「私は特別な経験をした」と思えることです。世の中に出ると自分よりすごい人に山ほど出会います。……が、しかし多くの人がG.ecboのような経験をしたことがありません。僕はネパールで2ヶ月山奥で暮らしましたが、そこまでやって修士論文のデータをとってきた人には、今まで1人も会ったことがありません。その経験をしたことが自分の自信になっています。何か嫌なことや辛いことが起きても、「まあけど、あの時の研究に比べれば楽か」と思えるようになっていきます。例えば自分よりもすごく英語がうまいし、頭も切れる人に会ったとしても、自分には先述のような経験があるため、「まあ自分にはあの研究をやり遂げた胆力があるからな」と心を平穏に保つことができます。

#### ◆G.ecbo経験の中で、自分の中に残り根付いていると感じるもの、さらに発展していると感じるもの

先述しましたが、「2ヶ月間ネパールで研究データを取った」と言う経験がやはり自分の中にずっと残っています。あの経験は唯一無二だと思いますし、今後いろんなことにチャレンジしていくにしても、「まああれより辛い経験は無いだろう」と前向きな気分になれる。G.ecboでの研究データ採集等は決して楽しいものではないと思いますが、それが後の自分の自信につながるはず。

2016年インターンシップ@ネパール・Jyamire村



Gecboでネパールの山奥へ。  
現地で歓迎され赤い粉を浴びる

出張でオーストラリア・シドニーへ



出張でノルウェーへ



### －後輩へのアドバイス

G.ecboはとにかく準備が大事だと思います。担当の先生と密に話し合っ準備を進めていくと、より良い結果が得られることでしょう。頑張ってください！



## インターンシップアンケート

G.ecboプログラムでは、インターン学生、学生の指導教員、派遣機関を対象に、インターンシップ修了後の評価アンケートを実施しています。学生がプログラムに参加して得られるメリットや、帰国後の変化・成長についてのご意見をご紹介します。

### G.ecboプログラム応募の一番の決め手は？

- ✓ 途上国での経験だけでなく、現地でのインターンシップにも参加できる点
- ✓ 海外でのインターンシップを経験したかったから
- ✓ インターンシップ先への渡航費全額補助
- ✓ 実際にフィールドで調査が出来る機会があること
- ✓ 興味のある分野のインターンシップがあることや、大学連携でしか行けない研修機関での研修を受けれること

### 参加にあたり、期待していたことは？

- ✓ 自分が大きく成長できるかもしれない、という期待
- ✓ 海外に長期滞在することで自分の実力の現在地を確認すること
- ✓ 英語能力の向上、日本ではできない経験
- ✓ プレゼンテーションの向上
- ✓ 海外でプロジェクトを行うのに必要なスキルを学ぶこと
- ✓ 海外渡航のテクニック等の情報共有と、渡航前後や渡航中のサポート

### 参加のメリット・デメリットは？

- ✓ 最大のメリットは、自身の渡航計画を多くの人にみてもらう機会があることだと感じる。また、当然、金銭面の支援は海外で十分に研究に集中できたことにつながった。デメリットは特にない。
- ✓ 日本ではできない経験ができること、現地の実情を体感することが我々がすべきことを考える機会となることがメリットだと考えます。
- ✓ 日常では得られない経験をすることができ、かつ自分自身の成長を感じることができた点がメリット
- ✓ 関係者に心配をかける点がデメリット(特に両親)
- ✓ 海外に友人ができる
- ✓ 新たな分野を探求する機会になったこと
- ✓ 事前研修を通じて、不慣れながらも英語でのコミュニケーションを積極的に行えた点
- ✓ 事前研修は、タスクの難易度・負荷が高い反面、非常に得られるものが大きいと感じた
- ✓ 国際社会を知ることができた

## 2023年度活動報告

4月3日	2023年度派遣学生の公募を開始しました
4月7日	G.ecbo Day : プログラム募集説明会を開催しました
4月18日	G.ecbo海外インターンシップ・遡上教育型インターンシップの募集を締め切りました
5月8日・10日・12日	2023年度派遣選考面接を行いました
5月18日	インターンシップ審査・結果通知をしました
5月24日	英語プレゼンテーション研修ガイダンスを行いました
6月5日・7日	第1回英語プレゼンテーション研修を行いました
7月3日・5日	第2回英語プレゼンテーション研修を行いました
8月7日・9日	第3回英語プレゼンテーション研修を行いました
9月1日	現地渡航・インターンシップを開始しました
9月27日	G.ecboプログラム運営委員会を開催しました
10月2日	2023年度冬期派遣学生の公募を開始しました
10月31日	G.ecbo・遡上教育型インターンシップの冬期募集を締め切りました
12月15日	夏期派遣生帰国報告会・冬期派遣生事前英語プレゼンテーション研修を行いました
2月21日	冬期派遣生事前英語プレゼンテーション研修を行いました
3月25日	G.ecboプログラム運営委員会を開催しました

## 2023年度 インターンシップレポート

山上 浩輝 / YAMAKAMI Hiroki

先進理工系科学研究科/博士課程前期/量子物質科学プログラム

Host	グリフィス大学 量子動力学センター (オーストラリア)
Period	2023年 9月 20日 - 11月 25日
Objectives	空間光変調器を用いた単一光子発生のためのパルスレーザーのスペクトル整形 と性能を評価し、実験技術の向上を目指すとともに量子光学やその基礎実験に関する知見を深める



### －派遣先・現地での生活について

研究グループのメンバーは10名ほどで、施設全体にも日本人のメンバーはいませんでした。様々な国から研究者が集まり活発な議論が行われていました。毎週水曜日のお昼にはメンバー全員で大学のレストランにご飯を食べに行ったり、昼食の後には必ずコーヒーを飲んで雑談したりするなど、日本の研究室との文化の違いを感じました。

宿泊先のルームメイトはアジア圏5か国からの留学生がいたし、研究機関にもイタリア、インド、メキシコ、コロンビアなど世界各国から研究者が集まっていた。何人かで会話する場面では、それぞれが自分の母国語訛りの英語で話しており、僕の発音や文法について何か指摘されるというようなことは一度もありませんでした。日本人の英語はよくサムライイングリッシュと呼ばれますが、それはむしろアイデンティティで、ネイティブのように話そうとは思わないで堂々と喋ってみるといことが大切だと分かりました。

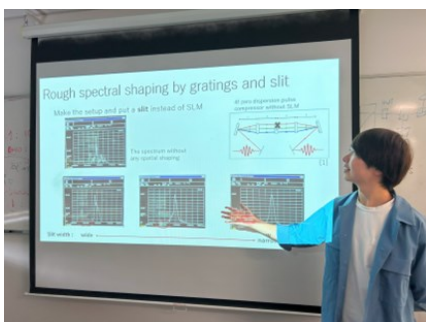
### －研修内容について

派遣先では、平日は大体9時～17時の8時間は研究に取り組む決まりがあったので、毎日30分バスで通学しながら研究室でのメンバーとの議論や実験に打ち込みました。派遣先の研究室が始めようとしていた大きなプロジェクトの、最初の技術的な部分が今回の研究テーマにあたり、実験に必要な空間光変調器という機器が段ボールで届いたところからのスタートでした。

光学機器の取り扱いに関する経験はある程度ありましたが、空間光変調器を使用するのは今回が初めてです。かなり精密で高性能な実験機器ということもあり、立ち上げや動作原理の理解には苦労しました。さらに、実験機器の制御のためにプログラムのコードを書く必要があったので、こちらも全くの未経験でしたが、メンバーに助言をもらいながらなんとかプログラムを完成させました。そして、最終的には目的のスペクトル整形をするための実験セットアップを完成させ、狙った波長のビームを取り出す波長フィルターとしての性能を評価することができました。

研修中は初めての実験機器を取り扱ったり、未経験のプログラミングを学んだり、予備実験のため何度も実験セットアップを組み直したりと大変なことがたくさんありましたが、何度もメンバーに相談をして目標を達成することができました。とても充実した研究生を送れたと思います。

帰国の数日前、毎週水曜日に行われているグループミーティングで研修中に行った内容と成果を研究室のメンバーに向けて発表する機会を頂きました。発表の後、特に仲の良かったメンバー2人がサプライズでインターン中の思い出を振り返るスライドを準備してくれていて、本当に素敵な人達に出会うことができました。



### －このインターンシップで一番得たもの

決められた期間、慣れない環境の中、初めて取り組む課題でもなんとかして成し遂げるとい経験が一番大きかったと思います。インターンシップに行く前は英語や日々の生活、人間関係など不安なことが多く、現地でどんな風に過ごしているか想像もつきませんでした。そんな状況からのスタートでしたが、「2か月という限られた期間でしっかりと研究成果を出す」という、大きな目標は常に見失わないようにしていました。おかげで、そのために必要な英語や現地生活の慣れなど、壁を乗り越えることができたと同時に、初めて扱う実験機器やプログラミングに対しても、周りの力を大いに借りながら習得することができました。最終的には研究の目標を達成し、プライベートも充実させることができたので、内容としては100点だったと思います。

## 2023年度 インターンシップレポート

### －インターン経験を今後どのように生かしていきたいですか？

このインターン経験を通して、慣れない初めての状況でも目標を見失わずにやり遂げる、という僕自身の強みを得ることができました。これは今後僕が人生で何か新しいことにチャレンジする時、大きな自信になり助けてくれると確信しています。また、今回初めて海外で生活してみて、人生でもう一度海外で生活してみたい、グローバルに活躍したいという思いが強まったので、今後の人生における選択に影響を与えてくれると思います。

### －後輩へのアドバイス

G.ecboプログラムは広島大学の留学プログラムの1つではありますが、生活の準備や派遣先とのやり取り、研修内容の決定まで、ほぼすべてが派遣学生に委ねられているので、研修が充実したものになるかどうかは全て自分次第だという意識が大切です。いざ現地に行ってみると大変なことや困難には必ず遭遇します。そんな時、思い悩むよりも、なんとかなるだろうと楽観的であればと意外と乗り越えていけると思います。

## Nissa Aulia Belistiana Utami

人間社会科学研究科/博士課程後期/国際教育開発プログラム

Host	インドネシア教育大学（インドネシア）
Period	2023年 9月 1日－11月 15日
Objectives	インドネシアの「レッスンスタディ」における実践を調査する



### －派遣国について

Indonesia is a diversity country with a slogan “Bhineka Tunggal Ika” means even though we are different (languages, ethnicities, cultures, or religions) but we are still the same, Indonesian.

### －研修内容について

I had my internship under the Centre for Excellence of Lesson and Learning Studies (CELLS). The main job was attending the “Gerakan Buka Kelas” (Open Lesson) and observing the lesson. I went to many schools in Bandung, and Cimahi. UPI and Hiroshima University have collaborated about Lesson Study for long time.

### －このインターンシップで一番得たもの

Before the internship, I was having hard time to observe the classes. I had to observe the students too for my research. But now, During the internship, I observed many classes with different teaching style, learning material, and students’ characteristics. Having such experiences and meeting other observers widen my perspectives. I can glean insights from diverse perspectives. This is what I learned from the internship.



### －事前研修・準備・後輩へのアドバイス

The pre-internship presentation was really a good move because the intern needed to find out the information about the country, host institution etc, in advance. So that we could imagine how would it be living in other country for the internship. Besides that, G.ecbo staff helped me a lot in doing the preparation in Hiroshima University by responding every questions I had in a very quick. Also, they informed the detail information, so I didn’t need to worry.



Here is some advice based on my experiences:

- Make sure everything before coming to the host institution/country.
- Having good communication is necessary.



## 2023年度 インターンシップレポート

川原 野々花 / KAWAHARA Nonoka

人間社会科学研究科/博士課程前期/国際教育開発プログラム

Host	メコン大学 日本語ビジネス学科 (カンボジア)
Period	2023年 10月 10日 - 11月 11日
Objectives	ICTを用いた日本語の発音学習教材を使用し、日本語指導の 実践・検証と自主学習教材の修正および開発をする



### －派遣先・現地での生活について

カンボジアでは月・水・金の週3回、1時間日本語や日本文化についての授業を行いました。平日の日中は授業準備や大学の授業を受講するなどして過ごし、休日は授業準備を行いつつキリングフィールドやアンコールワットなどを訪ね、歴史や文化について知識を深めました。カンボジアはカフェ文化が強く、大学近辺にも安くおいしいドリンク屋さんや沢山ありました。10月は日中非常に蒸し暑く、一杯1ドルくらいで飲めるので近所のタピオカ屋さんによく行っていました。ご店主は英語がわからない方だったのですが非常に親切にしてくださり、日本に帰る前日にはサービスしてくださいました。

またカンボジアは家族を非常に大切にす文化が強いです。メコン大学の学生と話していても家族愛が伝わってきて素敵だなと思いました。



### －研修内容について

日本語教師として派遣されたため主な研修内容は日本語や日本文化の指導でした。どちらかというと日本文化が中心で、その中で出てきた日本語表現の指導を行い、また研究の一環としてICTを用いて発音練習に関する調査を行いました。どの学生も非常に日本語や日本文化についての関心が高く、熱心に授業に取り組んでもらえてうれしかったです。

その中でも特に印象深いのは音楽の授業です。日本語指導とはあまり関係はないですが、カンボジアの学校教育には音楽の授業がないため学生たちにとっては人生初の音楽の授業でした。メコン大学には立派なグランドピアノがあるため、せっかくの機会なので「きらきら星」のピアノの練習を行いました。中々苦戦していたものの、ミスがなく一通り演奏ができたときの学生の笑顔は花が咲いたようで本当に忘れられません。



### －このインターンシップで一番得たもの

人との縁です。今回初めて一人で海外に、しかも長期でかつ非英語圏に行きました。私にとっては大きな挑戦でしたが本当に人との縁に恵まれました。出会った人々すべてが将来に向けて努力していて、私にはない価値観を持っていて非常に勉強になりました。一度扁桃腺炎になったときも、どうしたら私が一番早く回復するかを考え、多くの方が助けてくださいました。また帰り際には友好の証としてストールとプレスレットをいただきました。

私は当時、ちょうど就職活動を控えていた時期で焦って視野が狭くなりがちだったため、人として大切な価値観をカンボジアの方々から教えてもらった気がします。今回知り合った方々に会うために5年後にまたカンボジアを訪れたいと思っています。



### －インターン経験を今後どのように生かしていきたいですか？

まず実際に今回インターンで日本語指導や調査で得た結果や学びを研究に生かしたいです。特に自作の日本語の発音練習用ICT教材は課題が多く残る結果となってしまったため、改良していきたいです。また自身が所属する東広島市の外国人児童生徒へのボランティア団体の日本語支援においても得た気づきを生かしていきたいです。そして、今回観光目的以外での海外渡航に挑戦して非常にいい経験となったのでまた留学に積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

### －後輩へのアドバイス

G.ecboインターンシップを通して非常に多くのことを経験することができました。実践形式なこともあり非常に身になる経験ができました。海外渡航の経験は本当に貴重ですし視野が広がります。迷っているのであればぜひ挑戦してみてください！

## 2023年度 インターンシップレポート

Dwi N. 人間社会科学研究所/博士課程後期/国際経済開発プログラム

Host	イフガオ州立大学 刑事司法教育大学(CCJE) (フィリピン)
Period	2024年 1月 15日-2月 13日
Objectives	フィリピンにおける租税犯罪の研究・処理方法を学び、インドネシアと比較する



Mabuhay...!!!

I work as a law enforcement officer in Indonesia. For this reason, I researched tax crimes in several countries during my doctoral studies at Hiroshima University, Japan. I want to contribute my thoughts to creating a better policy to deal with overgrowing tax crimes.

That morning, January 15, 2024, I woke up early in my apartment. After praying at dawn, I rushed to Saijo Station to go to Hiroshima Airport. After 14 hours of flight, I arrived at Ninoy Aquino International Airport in Manila. The journey to Ifugao is still very far away; it takes about eight to ten hours by car to the north of Luzon Island. Ifugao is in a mountainous area of Luzon. The journey was tense because you had to go through a winding, uphill road, with gaping ravines beside it.

My internship program started with a courtesy visit to the President of IFSU, Dr. Eva Marie, and continued with a tour around the IFSU campus. Apart from the main campus, IFSU has five branch campuses spread across the Ifugao region.

Dr. Warren Tayaban (Associate Professor) from the College of Criminal Justice Education (CCJE), Ifugao State University was my host supervisor. His knowledge of criminology and the legal system in the Philippines was very comprehensive. We always go together and discuss my research themes with other faculty members of CCJE. From these discussions, I understand that tax crimes are rarely discussed in lectures, perhaps never, so Dr. Warren and I planned to visit several places to obtain the necessary information and data. We visited and collected data through interviews and written interviews at the Revenue District Office, Ifugao tax office in Lagawe City, the Ifugao Regional Trial Court (RTC) in Banaue City, the clerk of the RTC and the BIR national office in Manila.



There was something that made me very happy when I was in Manila. I met several BIR employees who were Muslims. They invited me to go to the nearest mosque to perform Friday Prayer. They also showed me where to find halal food in Manila. They all come from the Muslim-majority Mindanao region. I am delighted because I can finally pray in a mosque, even though the mosque is very simple and in the middle of a slum and densely populated area. This moment is awe-inspiring to me.

I am pleased to have the opportunity to intern at Ifugao State University, even though several things are challenging for me. I hope my research in the Philippines can provide additional material for writing dissertations and scientific publications to help me complete my doctoral program at Hiroshima University. I also want to maintain the communication and network formed in the Philippines to support my duties after completing my studies. That is all my experience from the beautiful and green city of Ifugao, even though it is far away in the countryside.

For Hiroshima University students who wish to take part in an internship, I advise them always to be prepared for unexpected things.

**One word from me is that experience is more important than knowledge; you can learn knowledge, but for experience, you have to do it by yourself.** Salamat...!!



## 2024年度、リサーチアシスタントの紹介

G.ecboプログラムでは、派遣学生の英語コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上を目的として、プレゼンテーション研修を派遣前に計3回、帰国後に1回行っています。



### ISHARA MADHUNIKA OPATHA / イシャーラ マドウニカ オパタ (D3)

Greetings, I am Ishara Madhunika Opatha, currently pursuing my PhD at the Graduate School of Humanities and Social Sciences at Hiroshima University, originally hailing from the enchanting island of Sri Lanka. It is with great honour and gratitude that I have had the privilege to serve as a research assistant twice within the esteemed G.ecbo program, commencing in 2023 and persisting to the present day. My journey with G.ecbo has been profoundly enriching, providing me with invaluable opportunities to develop my professional competencies, engage in cross-cultural research, and collaborate with diverse teams.



The G.ecbo program, standing for the Global Explorers to Cross Borders, stands as a beacon of innovation and collaboration aimed at fostering cross-cultural understanding to address pressing global challenges. Through a diverse range of meticulously curated research projects, internships, and academic exchanges, the program unites scholars and students from various backgrounds, encouraging them to explore innovative solutions to complex societal issues on a global scale.

As a research assistant, entrusted with guiding students in preparing for global internships, conducting meticulous pre- and post-presentation evaluations, and facilitating essential meetings and activities, including collaboration with esteemed international institutions to enhance communication and foster collaboration among participants.

I firmly believe that the G.ecbo program offers students boundless opportunities to immerse themselves in diverse cultural landscapes and expand their horizons with invaluable global research experience. In closing, I extend my heartfelt best wishes to all for the forthcoming initiatives of the G.ecbo program. I remain steadfastly committed to empowering students to wholeheartedly embrace global experiences and make meaningful contributions to impactful initiatives. Additionally, I eagerly look forward to collaborating with new interns in 2024.

Here's to a journey filled with learning, growth, and profound experiences!

### NISSA AULIA BELISTIANA UTAMI / ニーサ オーリア ウタミ (D2)

Hi! I am Nissa Aulia Belistiana Utami, a doctoral student in Hiroshima University, majoring International Education Development Program, at Graduate School of Humanities and Social Sciences. I am originally from Indonesia. I participated in the G.ecbo program as an intern in 2023, and this year, I have the opportunity to be a Research Assistant.



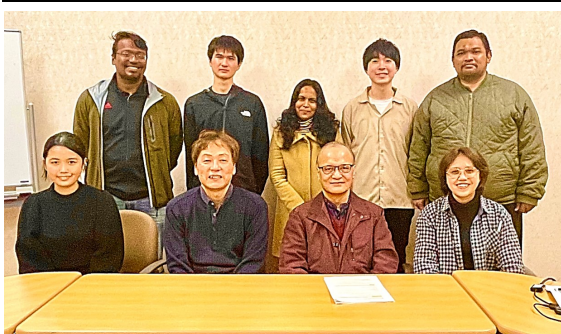
I'm interested in learning, not only from the books but also from the experience life offers. I love exploring and seeking out new experiences to broaden my horizons. I have a motto "Do it now or never" as I believe it is better to regret the things I've done than to regret missed opportunities.

Let's get to know me!

G.ecbo program offers me the opportunity to learn from other interns' experiences in living abroad. I am eagerly looking forward to meeting new interns!

## 2023年度は6名の学生が海外インターンシップを実施しました

所属・氏名	派遣先	派遣プログラム
人間社会科学研究科 Nissa Aulia Belistiana Utami	インドネシア教育大学(インドネシア)	G.ecbo遡上
人間社会科学研究科 川原 野々花	メコン大学日本語ビジネス学科(カンボジア)	G.ecbo
先進理工系科学研究科 山上 浩輝	グリフィス大学量子動力学センター (オーストラリア)	G.ecbo
人間社会科学研究科 Dwi N.	イフガオ州立大学(フィリピン)	G.ecbo
先進理工系科学研究科 福田 竜也	グリフィス大学量子動力学センタ (オーストラリア)	G.ecbo
人間社会科学研究科 Mandal Tapan Kumar	ケラニヤ大学(スリランカ)	G.ecbo



事前事後研修にて

2024年度G.ecbo海外インターンシップの募集は4月から開始  
予定です！派遣先等の詳細はHPをご覧ください。

G.ecbo will call for 2024 participation in April!  
Go to our website for the list of intern locations  
and further details.

### 2023年度G.ecbo運営委員会 ～ ご協力ありがとうございました ～

運営委員長	マハラジャン・ケシャブ・ラル	大学院人間社会科学研究科 国際経済開発プログラム 教授
運営委員	桑島 秀樹	大学院人間社会科学研究科 人間総合科学プログラム 教授
	上野 貴史	大学院人間社会科学研究科 人文学プログラム 教授
	磯崎 哲夫	大学院人間社会科学研究科 教師教育デザイン学プログラム 教授
	高田 恭子	大学院人間社会科学研究科 法学・政治学プログラム 准教授
	島田 伊知朗	大学院先進理工系科学研究科 数学プログラム 教授
	天川 修平	大学院先進理工系科学研究科 量子物質科学プログラム 教授
	山本 元道	大学院先進理工系科学研究科 機械工学プログラム 教授
	上田 晃弘	大学院統合生命科学研究科 生物資源科学プログラム 教授
	藤井 万紀子	大学院医系科学研究科 歯学専門プログラム 教授
	日下部 達哉	IDEC国際連携機構 教育開発国際協力研究センター 准教授
	陳 斐寧	森戸国際高等教育学院 准教授
オブザーバー	三須 敏幸	グローバルキャリアデザインセンター 副センター長 教授
	崔 善境	グローバルキャリアデザインセンター 助教



広島大学 学生プラザ 2階  
グローバルキャリアデザインセンター  
G.ecboプログラム  
Email: gecbo@hiroshima-u.ac.jp  
https://www.hiroshima-u.ac.jp/gecbo

